



地域連携だより

放射線課よりCT撮影装置入れ替えのお知らせ

SIEMENS社製 SOMATOM go.Top (64列)



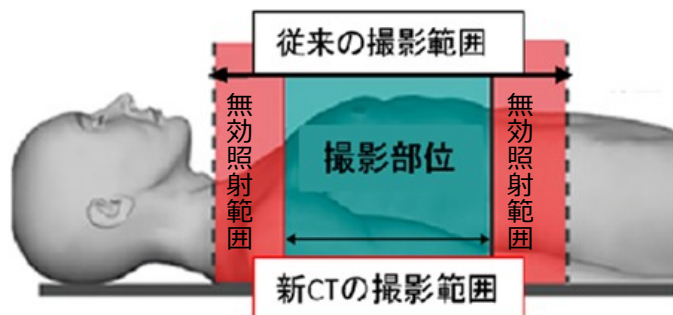
- ・同社機種最大開口径の70cm
→ 広い開口径により圧迫感の軽減
- ・タブレットによる遠隔操作が可能
- ・「撮影管電流最大825mA」
→ 撮影電圧の低減が可能 = 低侵襲・低被爆

— 特徴（前機種と比較して） —

1. 被曝線量が低減

SIEMENS独自のTinFilter及び低電圧撮影の採用により、従来の撮影と比べ最大約1/50の線量へ抑制。（胸部レントゲン撮影と同等程度）

また、最新の被曝低減機構（CARE）の搭載により撮影範囲の前後に生じるX線の無効照射がカットされ（※1）、より被曝の少ない検査で、以前の画質と比しても遜色のない画像を提供する事ができます。



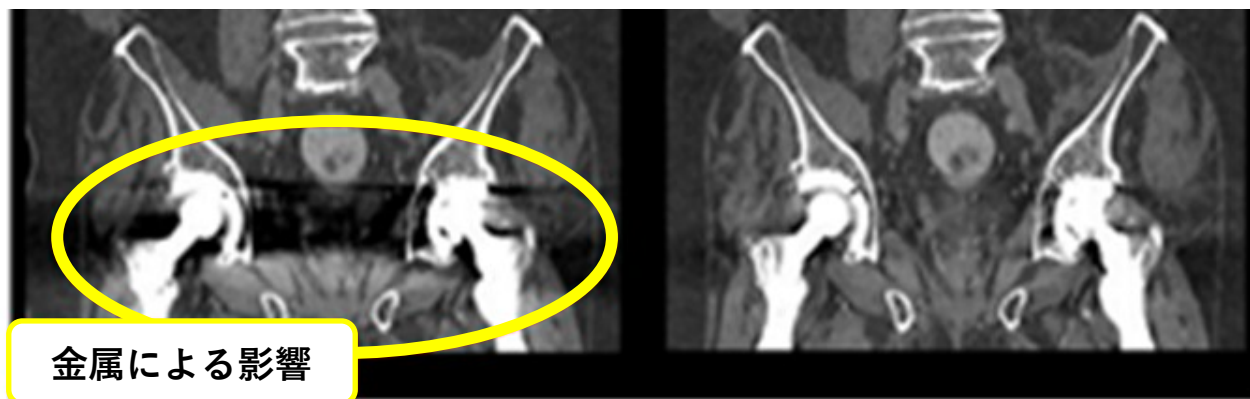
（※1）被曝低減機構(CARE)のイメージ図

2. 画像の質が向上

画像処理能力が向上したことで、体内インプラントなどで発生する金属アーチファクトにより描出が困難だった部位の診断が可能（裏面※2）となります。

軟部組織においても、低電圧・高電流撮影により、画像のコントラストが向上したことで、低侵襲ながら体格により生じるノイズの抑制、さらには造影剤の使用量の低減が見込めます。また、最大管球回転速度が 0.33sec/360°へと上昇したことで、息止めや制動が難しい患者様に対し、従来より動きが少ない画像を提供が可能となります。

(※2) 金属アーチファクト低減イメージ図



従来のCT装置

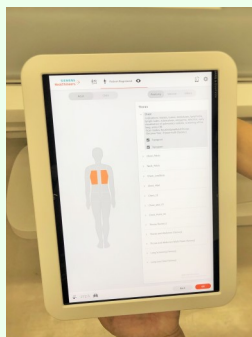
新CT装置

— 導入後、実際に使用した放射線技師の感想 —

A.I 搭載による画像再構成の効率化、操作の自動化により検査時間が短縮されました。その事により、撮影終了後に画像を見直す時間が以前に比べ多く確保できるようになり、見逃しの減少にも繋がってくると考えます。

また、タブレットによる遠隔操作や画像確認が可能となった事で、昨今の流行感染症対応時における作業効率の向上、また従来に比べ撮影の直前まで患者さんの傍に居る事ができ、急変時でも迅速に対応が可能となりました。

今回新しい機器を導入したことで、これまで以上に質の良い画像を提供できるよう努めていきたいと思っておりますので、ご紹介をよろしくお願い致します。



CT本体から独立したタブレット端末で遠隔操作

被験者情報の選択から、ポジショニング、スキャンの実行とすべての操作をCT本体から離れたタブレット端末とリモートコントローラから行うことができます。スキャン後の画像確認も、タブレット端末に自動送信されるので、被検者のそばで行うことができます。

— CT・MRIのご紹介について —

当院ではC T・M R I 検査予約を電話で承り、すみやかに日時のご案内をしております。

当日の検査や夜間・休日の検査も対応しておりますので、お気軽に地域医療連携室にお問合せください。

東大阪病院 地域連携部

直通TEL

06-6932-0369

直通FAX

06-6932-0086

東大阪病院 (代表)

大阪府大阪市城東区中央1丁目7-22

TEL :06(6939)1121 FAX :06(6939)1191